

南硫黄島周辺海底火山の最近の活動等について*

海上保安庁水路部

本会報第40号に報告した後の南硫黄島周辺海底火山の活動状況は、以下のとおりである。

ここで報告する期間は、1988年(昭和63年)1月14日から1988年(昭和63年)5月12日までである。

- 1. 福神海山 北緯 21度56分
 東経 141度28分
- 日光海山 北緯 23度04.5分
 東経 142度18.5分
- 南日吉海山 北緯 23度30.4分
 東経 141度54.3分
- 海徳海山 北緯 26度07.3分
 東経 141度06.1分

第1表に示すように、この期間はいずれの海底火山にも変色水は認められなかった。

第1表 福神海山、日光海山、南日吉海山及び海徳海山の火山活動の経過
Table.1. Volcanic activities of the Hukuzin Seamount, the Nikko Seamount, the Minami-Hiyosi Seamount and Kaitoku Seamount.

年月日	観測結果	出所
1988. 2.10	変色水を認めず	海自航空機
3.11	"	"
4.26	"	"
5.12	"	"

- 2. 福徳岡ノ場 北緯 24度17.0分
 東経 141度29.1分

第2表に示すように、この期間はその規模の大小の差はあるが変色水が認められている。

* Received July 28, 1988

第2表 福徳岡ノ場の火山活動の経過

Table.2. Volcanic activities of the Hukutoku-Oka-no-Ba.

年月日	観測結果	出所
1988. 1.14	南硫黄島山頂の北方約3.5海里から西南西へ長さ約2海里, 幅20~60mの薄緑色変色水を認めた。	海保巡視船「みずほ」 搭載ヘリコプター
2.10	南東方向へ長さ約1海里, 幅約100mの緑色(中心は白色)変色水を認めた。	海自航空機
3.11	緑ないし青色の変色水を認めた。	〃
4.26	南北200m, 東西5kmの変色水を認めた。	〃
5.12	南北4km, 東西500m, 東方2km流出, 茶及び緑色の変色水を認めた。	〃

3. 南硫黄島付近

昭和63年1月27日13時40分頃, 北緯24度28分, 東経141度38分の位置から西南西方向13~15海里付近(南硫黄島の北北西約10海里)において, 海底火山の爆発と思われる高さ約100mの噴煙を認めた。なお, 13時45分頃にはおさまりつつあった。(大船渡漁船サカエ丸)

同日16時40分頃, 付近の海域には上記現象は見られず, また湧出物及び変色水も認められなかった(空自航空機)。

4. 西之島及び西之島新島

北緯 27度14.5分
東経 140度52.8分

1986年(昭和61年)3月9日, 海保航空機(L)で同島の写真撮影(マルチバンドカメラ)を実施し, 地形図を作成した(第1図)。

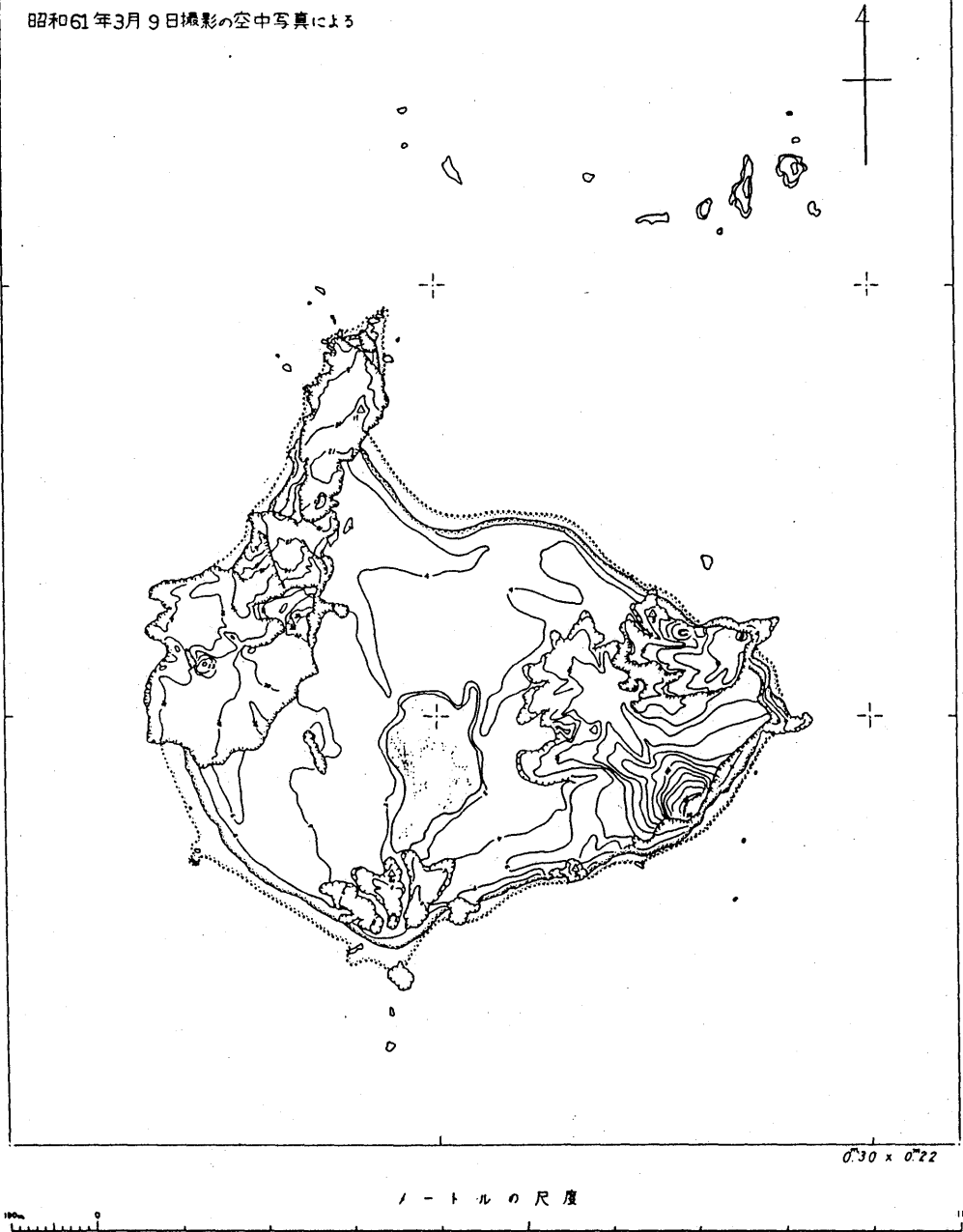
第2図は前回(1984年(昭和59年)7月)作成した地形図と比較したものである。島の北及び南西, 南東側は, 砂礫の堆積がみられ陸域を広げているが, 島の南側は海岸線が若干後退している。島の面積は前回の撮影時と比較して8,000m²増加している。

第3図は1974年(昭和49年)8月当時(新島の面積最大時)と比較したものである。島の東側から南側にかけては陸部の減少が著しい。その面積は30,000m²の減少となっている。

南方諸島

西之島及西之島新島地形図

昭和61年3月9日撮影の空中写真による



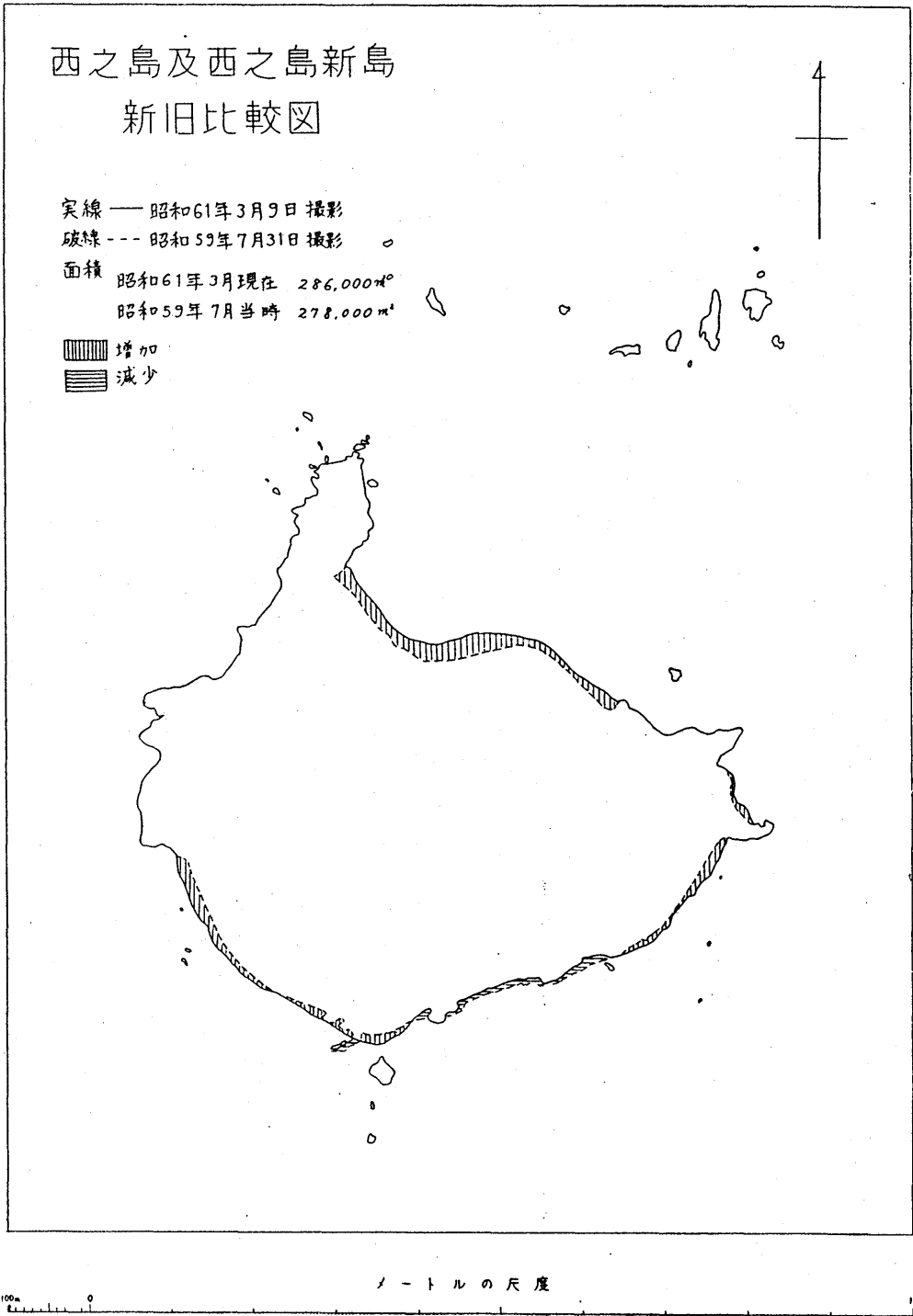
第1図 西之島及西之島新島地形図

Fig.1 Topographic map of Nisi-no-Sima and Nisinosima-Sinto Mar. 9. 1986

西之島及西之島新島 新旧比較図

実線——昭和61年3月9日撮影
 破線---昭和59年7月31日撮影
 面積 昭和61年3月現在 286,000㎡
 昭和59年7月当時 278,000㎡

 増加
 減少



第2図 西之島及西之島新島新旧比較図

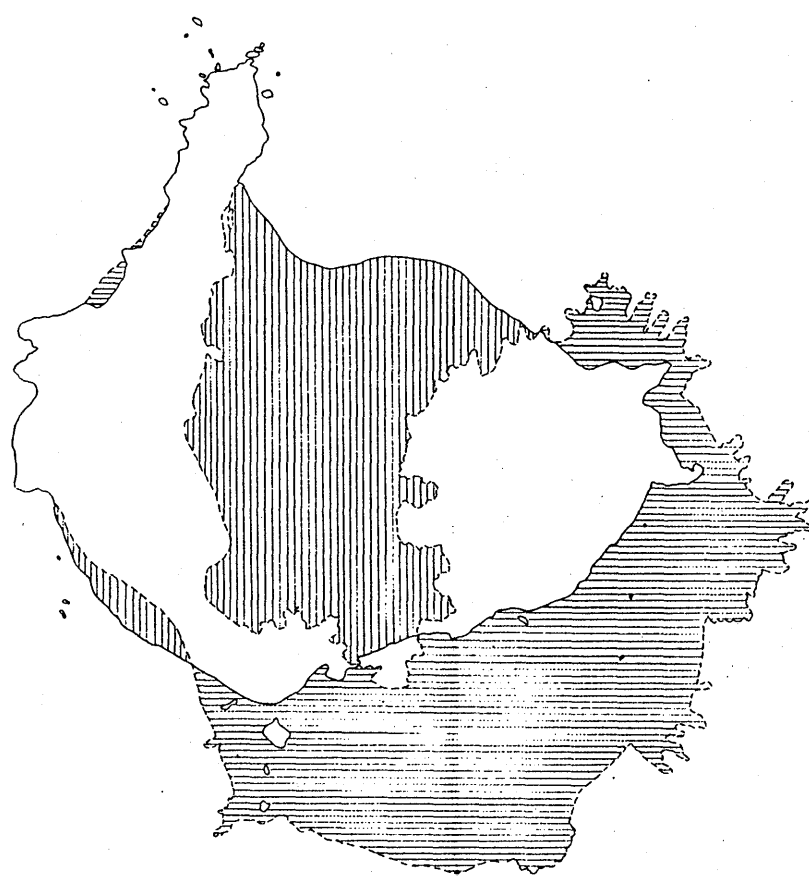
Fig.2 Topographic change of Nisi-no-Sima and Nisinosima-Sinto
 —Mar. 9. 1986. Jul. 31. 1984

西之島及西之島新島 新旧比較図



実線 — 昭和61年3月9日撮影
 破線 --- 昭和49年8月3日撮影
 面積 昭和61年3月現在 286,000m²
 昭和49年8月当時 316,000m²

▨ 増加
 ▨ 減少



メートルの尺度

第3図 西之島及西之島新島新旧比較図

Fig.3 Topographic change of Nisi-no-Sima and Nisinosima-Sinto
 —Mar. 9. 1986. Aug. 3. 1974

5. その他

- (1) 昭和63年3月18日、ペヨネーズ列岩付近(31°54'N 140°04'E)において、湧水点付近から角度60度位の扇状に約8kmの長さに広がった薄緑色の変色水を認めた。なお、温度の上昇はなかった。
(海自航空機)

3月19日16時22分、上記海域において、長さ2km、幅2km、中心付近薄緑色で外側は更に薄い緑色の変色水を認めた。
(海自航空機)

- (2) 昭和63年4月13日、諏訪之瀬島(29°31'N 129°43'E)は5時から15時の間、1分間に5～6回の小爆発を繰り返し、噴煙を上げ、地鳴り等を伴った噴火を認めた。
(十島村役場)

4月15日9時20分現在、活発に噴火活動をしており、噴煙は長さ9km、幅2km、高さ2kmで強い北風のため南に流されている。
(海保巡視船「おおすみ」搭載ヘリコプター)

4月15日10時頃、同島の状況は同様であるが、火炎及び溶岩は認められなかった。

(海保航空機(M))

- (注) 「海自航空機」とは、海上自衛隊第四航空群所属航空機P-3C、「空自航空機」とは、航空自衛隊第七航空団所属航空機F-4EJ、海保航空機(L)とは、海上保安庁所属航空機YS-11、海保航空機(M)とは海上保安庁所属航空機ビーチクラフト200Tのことである。